

グループホームおあしす(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 20 年 12 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	1870400205
法人名	株式会社 オアシス
事業所名	グループホームおあしす
所在地	福井県小浜市雲浜1丁目8-8 (電話) 0770-53-5500

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成20年10月15日	評価確定日	平成20年12月16日

【情報提供票より】 (20 年 9 月 1 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 2 月 28 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12 人、非常勤 3 人、常勤換算 13.8 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	1 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有 (円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,050 円	

(4)利用者の概要 (9 月 1 日 現在)

利用者数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	6	要介護2	4
要介護3	6	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 85.7 歳	最低 68 歳	最高 101 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	山手医院(内科)、藤田歯科医院(歯科)
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>本ホームは、民家に囲まれた静かな住宅街の一角にあり、海も近く、夏の花火大会や野山の四季折々の風景がホームで暮らしながら身近に感じることができる。</p> <p>3階建ての建物は、1階に1ユニットと居宅介護支援事業所および法人事務所、2階にも1ユニットと小規模多機能型居宅介護事業所、3階に高齢者向け賃貸マンションを併設し、複合的な機能をもつ事業所であることが特徴といえる。</p> <p>ホームとして地域に溶け込んで地域と共に入居者の生活を支援していくという方針から、地域の行事や活動にも積極的に入居者と共に参加している。日常生活でも入居者が培ってきたことを職員が教えてもらい、共に生活を支え合う姿勢がうかがえる。重度化や看取りへの対応についても全入居者家族に事業所としての取り組み方針を説明しており、家族の安心につながっている。運営推進会議も定期的に関かれ、出された意見に対しても迅速な対応を行い、業務に反映できるように取り組んでいる。</p> <p>今後は、地域密着型サービスとしての実践を理念の中に盛り込むことや職員と入居者の馴染みの関係を継続できるような人事面での配慮、法人内の連携を図りながらグループホーム独自でも地域に溶け込む働きかけを行うなどの取り組みが期待される。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での指摘を踏まえ、「家族愛」という法人理念をより具体的に明文化した「新しい理念」を掲げ、職員全体で共有を図りながら、入居者の尊厳の保持に取り組んでいる。しかし、「職員の異動等による影響への配慮」等は今回も継続課題となっているため、馴染みの関係による支援の重要性を踏まえた取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長や管理者は自己評価や外部評価が業務に対する振り返りや点検につながるとの認識はあるが、事業所全体での取り組みにまでは至っていない。自己評価項目を全職員で一つ一つ掘り下げて話し合ったり、改善課題についても全職員で共有して、具体的な取り組みにつなげることを期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議は、同じ建物内の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で定期的開催しており、行政関係者や地区民生委員、家族代表が参加している。会議では、活発に意見交換がなされており、出された意見で取り組める内容については迅速に対応して、次回会議で報告もなされている。具体的には、入居開始の前にショートステイでの利用ができるようになるのと委員の意見を踏まえて、前向きに検討している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>基本的に職員は入居者ごとの担当制を設けているが、申し送り簿を活用することで、担当以外でも家族に連絡事項や報告ができるようにしている。また、運営推進会議や来訪時、電話連絡等の際に家族とコミュニケーションを図り、家族の意見や要望等を吸い上げるようにしている。内容については管理者や施設長に報告して、改善できる内容には早急に対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設から3年が経過したこともあり、地域との交流の機会も増えてきている。また、運営推進会議の意見を取り入れて、近隣住民の理解を得る取り組みも増えてきている。法人としての地域との窓口が居宅介護支援事業所となっているため、法人内の連携も図りながら、認知症について地域に理解を深めるなどグループホーム独自でも地域に溶け込む働きかけをさらに期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回評価での指摘を踏まえ、「家族愛」という法人理念をより具体的に明文化した「新しい理念」を掲げ、職員全体で共有を図りながら、入居者の尊厳の保持に取り組んでいる。		「新しい理念」には、主に対人援助に関する内容が掲げられているが、ホームとして地域との交流・連携も重視していることもうかがえるため、地域密着型サービスとしての実践を理念の中にさらに盛り込むことが期待される。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「新しい理念」を玄関に掲示し、日々利用者との関わりにおいて実践できるように取り組んでいる。入居者の尊厳を損なうことがないように職員同士で注意し合うようにしている。		理念は施設長と管理者で作成しているが、全職員ですらに理念の共有を図って、入居者が安心して生活を送れるように取り組まれることを期待したい。
		2 地域との支えあい			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設から3年が経過したこともあり、地域との交流の機会も増えてきている。また、運営推進会議の意見を取り入れて、近隣住民の理解を得る取り組みも増えてきている。		法人としての地域との窓口が居宅介護支援事業所となっているため、法人内の連携も図りながら、認知症について地域に理解を深めるなどグループホーム独自でも地域に溶け込む働きかけをさらに期待したい。
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長や管理者は自己評価や外部評価が業務に対する振り返りや点検につながるなどの認識はあるが、事業所全体での取り組みにまでは至っていない。		自己評価項目を全職員で一つ一つ掘り下げて話し合ったり、改善課題についても全職員で共有して、具体的な取り組みにつなげることを期待したい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、同じ建物内の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で定期的開催しており、行政関係者や地区民生委員、家族代表が参加している。会議では、活発に意見交換がなされており、出された意見で取り組める内容については迅速に対応して、次回会議で報告もなされている。		
	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市担当者も参加してもらい、意見交換を行っているほか、市が主催する地域会議にも施設長が参加して、情報交換がなされている。		現在、市が主催する地域会議には施設長が出席しているが、会議内容について事業所内での共有が十分にされていないため、議事録の回覧等で情報の共有が図られるように期待したい。
		4 理念を実践するための体制			
	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は入居者ごとの担当制になっているが、担当以外でも家族に報告ができるように申し送り簿を活用している。また、利用料の支払い等で毎月1回は家族に来所してもらうようになっており、定期的な報告と連絡、相談や要望の確認等を行っている。必要時には電話で連絡を取り、迅速な対応を心掛けて家族の安心につなげている。		
	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会等で来所した時にその都度声かけをして、些細な事でも聴き取れることを心掛けている。内容については管理者や施設長に報告して、改善できる事には早急に対応している。また、年に1回、家族交流会を企画しており、意見交換や要望を吸い上げる機会としても活用している。		建物全体の施設長(前管理者)とグループホームの各ユニット管理者とで引継ぎや役割分担が不十分な部分も見られるため、管理者の権限や責任を明確にして、入居者や家族にとっても不安のない対応を期待したい。
	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	どの職員も法人内の各部門への応援対応ができるようにと運営者は定期的に職員異動を行っているが、ホームとしては家族から職員の異動が多いことに不安の声もあがっていることから、できるだけ異動をなくして馴染みの関係を維持する必要性を認識している。		職員の異動による入居者への影響に配慮し、できるだけ異動を少なくして馴染みの関係の維持に努めるとともに、法人内の応援体制については、各部門間での交流機会を設けたり、短期間の職員交換研修を行うなどの工夫を期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、最初の1か月間は他の職員がマンツーマンで認知症ケアの業務や入居者との関わり方を指導し、各種研修にも参加を促している。また、法人全体で職員の慰労会や悩み事を聴いたり、アドバイスするなどしてストレスの軽減を図っている。		職員間の人間関係は良好に築かれているが、事業所内の勉強会等にはあまり取り組んでいないため、理念の共有への取り組みや自己評価項目も活かした職員相互の研鑽と資質向上を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各事業所間でのつながりはあるが、他事業所との交流はまだできていない。		グループホームの同業者だけにとらわれず、福祉関係の他事業所とも交流することで、職員の視野も広がり、入居者へのケアや提供しているサービスへの気づきにもなることから、少しずつでも交流の機会を設けられるように期待したい。
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者本人や家族に事前の見学を勧めて、ホームの雰囲気馴染んでもらえるよう取り組んでいる。今後は、本人ができるだけ混乱なく入居できるように、ショートステイでの利用も受け入れられる体制を検討していく予定である。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が入居者から料理や裁縫を教わったり、職員の悩み事を聞いてもらうなど、入居者と職員が互いに支え合いながら生活を送っていることが、職員へのヒアリングから確認できた。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者への声かけを大切にして、普段の会話から何を希望しているのか、どうしたいのかを把握しながら、さりげなく日常生活の場面に反映されるように関わっている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの要望も取り入れながら、日々の些細な気づきも個人記録と申し送り簿に記録して、職員全体で入居者の課題を話し合い介護計画に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと必要に応じた介護計画の微調整を行いながら、入居者の状態に合わせて随時計画の変更を行っている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	3階建ての建物に居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、高齢者向け賃貸マンションが併設しており、併設事業所の機械浴を利用したり、ホーム退居後も法人内の各部門で継続支援が行えるような体制になっている。また、ホームの入居者がホームからマンションに退居した人に会いに行ったり、合同の行事も行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には以前からのかかりつけ医を継続受診しているが、持病の治療やかかりつけ医からの勧めがあった場合に、必要に応じて家族に説明と理解を得て受診先の変更を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や看取りについては事業所としての方針を作成しており、契約時に家族に説明と理解を得ている。家族の中には、入居者本人と終末期の意向を話し合っている家族もあり、事業所として必要に応じて支援していくこととしている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねるような声かけに対する職員同士の注意喚起がなされており、訪問調査時も職員が入居者に対して普段から言葉の使い方に配慮されている様子がうかがえた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から入居者との対話を大切に、買い物や入浴、仏前の花換えの時間等一人ひとりの生活してきた習慣や慣習をホーム内でも継続できるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前はキッチンで料理する男性入居者もあり、入居者が買い物から調理、配膳・下膳等一連の活動にそれぞれできる範囲内で関わられるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じて夜間入浴も午後8時までできるなど、柔軟な対応がなされている。また、身体的に一般浴での入浴が困難な入居者に対しては、本人の希望により小規模多機能型居宅介護事業所の機械浴も利用できるようになっている。		車いす使用の入居者で併設事業所の機械浴に対する不安からホームでのシャワー浴のみとなっているケースがあるが、普段から入浴時の移動も想定した立ち上がり動作の支援をすることで、結果として一般浴での入浴が可能となる場合もあるため、温かく不安のない入浴が提供できるような支援が期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を畳んだり、食事に関する作業等、日常的に自由に取り組んでもらっており、入居者の日課となっていることも多くみられる。実際に訪問調査時も、入居者が自主的に活動に参加する様子がみられた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームから3階の高齢者向け賃貸マンションへ退居した人の所へ通ったり、食材の購入や入院者への面会、馴染みの場所へのドライブ等で日常的に外出している。地域のイベント参加に加え、年1回家族と共に出かけ楽しむ家族交流会等も開いている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間施錠のみで自由に出入りできるようになっている。建物1階の法人事務所とも協力して、見守りが必要な時にはホームに連絡してもらう体制も整っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は行っているがその他の災害時の対策についてはまだ取り組めていない。また、救急法の研修についても受講してはいるが、その後の内部研修等に活かされていない。		ハザードマップを活用して天災時の対策や指定避難場所までの危険箇所の把握に努めたり、地域への協力も要請して「もしも」の時に迅速に対応できるような体制づくりが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内に栄養士があり、季節の食材や入居者の身体変化に応じた調理法等も相談できる体制となっている。水分制限のある入居者には、ボトルを使って摂取量の把握も行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはオープンキッチンとリビングが配置されており、落ち着いた色合いの家具と明る過ぎない採光で柔らかい雰囲気づくりがなされている。季節感を感じ取れる野菜や果物が置かれ、行事の写真等も掲示されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間を囲む廊下に面して居室が配置され、部屋ごとにドアの取っ手の色が異なり、本人に選んでもらった動物等のステッカーもドアに貼って個別化がなされている。また、居室には思い思いに持ち込んでもらった私物があり、その人らしい空間の確保もなされている。		

グループホームおあしす(1Fユニットせせらぎ)

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	理念に基づく運営 1 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族愛」という抽象的な理念を具体的に文章化し、全職員で共通の理解をしている。		グループホームの役割として、地域との交流・連携を果たしていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を常に念頭におくために、スタッフルーム内に具体化した文章を貼り実践している。理念に反する言動があればその都度直すようにしている。		職員の入れ替わりがあった時でも理念を念頭において関わる大切さを伝えていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入居時に口頭で説明を行い、ホーム玄関にも掲げてある。		地域の人々には理解不足のように思う為、今後取り組みたい。
	2 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶程度は行えている。		挨拶以上の付き合いはできておらず、立ち話などから、発展させていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区よりまわってくる回覧板などで、行事、催し、奉仕作業等の情報を得て参加している。		地元の催しや集まりには積極的に参加したい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区の奉仕作業には代表者、施設長がすすんで参加し高齢化のすすむ同地区に協力している。		
	3 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は理解し活かしたいと考えているが、職員に具体的な活用法として、伝えられていない。		具体的に説明し、意義を全職員に理解してもらい、生かしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し委員にグループホームや入居者の様子を報告し、会議により出された、要望、意見、助言を運営に生かしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員に市から介護保険担当と健康増進担当の2名が入っているほか、市役所で行われる会議等に出席している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と一部職員は研修にて学んでいるが、現在必要としている対象者はいない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろんの事、言葉による虐待がないかも注意をしている。		身体拘束委員が設けてあり日々注意をしている。職員研修などで、学ぶ機会を設けたい。
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの内容を理解してもらえるように、ゆっくりと時間をとって質疑応答が出来るようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口になっている他、職員も随時不満等を聞き記録に残している。		随時生活の場で聞く以外にも、一対一にて不満等を聞くように努めている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、各個人の家族へ便りにて伝えている他、急を要する時には、電話にて伝えるときもある。		現在の報告方法に家族は満足している為、今後も続けていきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声を掛け訊く様にしている。その内容については速やかに対応、反映されている。		家族からの意見は貴重な為、随時聞き入れていきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議では勿論意見、提案を訊く事を行っている。		一対一になった時には、それとなく訊くようにしている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務を組む上で考慮し、調整を行っている。		人員に余裕が無い為、人員不足となる場合がある。必要人員を確保したい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者と管理者とで話し合いを行い、異動を極力行わないようにしている。		離職については、条件面などで話し合いをもっていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に勤務時間内に参加できるようにしている。学んだ研修を他職員に伝えるようにしている。		本人の学びたい研修に参加できるように支援していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相談することはあるが、電話にてが多く、訪問、勉強会は行っていない。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事上の悩みを随時訊く様にし、前向きとなるアドバイスや助言を行っている。		ストレス発散が出来る場を設けるようにしている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員それぞれの長所が、具体的にどのように良い影響を与えているかなどをさりげなく説明している。勤務が通常考えて過酷であったりするときは前もって声を掛け、終了後ねぎらうようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	心配な事や不安な気持ちがみられるときには、話を聞き解消に努める。		話を訊く時間を多く取り、不安解消に努めていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを理解し、希望・不安について相談し良い関係が築けるようにしている。		ゆっくり話を訊く時間を持っていきたい。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要とされている支援を相談から見極めケアプランに反映させている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人への説明の後、全職員が方向性を理解し、開始時期、場面を決め、さり気なく行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	男性職員が多い為、調理や縫い物などを頼ったり、教えてもらう場面が多くある。		畑を作る事を始め、作物の育て方など学んでいきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	問題があった時には共に解決策を考え、嬉しい事があった時は、記録に残し面会時に伝えるようにしている。		今後も良い関係を継続させていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族両方より話を聞き、思いを理解し良い関係の橋渡しに努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	あえて外出の機会を設け、以前の生活の場や、馴染みのある場所へ出向くようにしている。		家族の希望でもあり、本人にも喜んでもらえる為、続けて行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が橋渡しせずとも、お互いの関係を理解し助け合いや声掛けを行っている。		現在の良い関係が続く様に支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在までに継続的な関わりを必要としている利用者がいなかった為行えていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人ひとりの思いを聞き入れ担当職員が意識して本人の意向の把握をしている。		日常会話などから本人の希望を理解できるように注意している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報やサマリーから情報収集し把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の介護の記録、バイタル測定にて現状を把握し申し送りにて統一されている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンス会議にて全職員で話し合い、本人・家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。		今後も本人の希望優先の介護計画を立てていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間には必ず行うようにしている。満足のいくケアプランで無い場合には、再カンファレンスを行っている。		介護者本位のケアプランにならない様に、気をつけていきたい。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を午前・午後・夜間と必ず記入し、変化があった場合などは、全職員で把握に努めている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居宅事業所の助言を得る事は日常的にある。その以外の事業所を活用した事はない。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて関係機関に協力してもらっている。民生委員やボランティアの訪問がある。		地域中学校と交流を持てるように取り組んでいる。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて活用しようと考えている。		地域リハビリサービスを活用しよう、と考えている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要のある場合のみ相談を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望の医療機関を確認し受けられるようにしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に詳しい医師より指示、助言を受け必要に応じ治療を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤している為、日常的支援を行い職員間での相談も「行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の様子の把握を行い退院後のケアについても話あっている。		現在入院中の方がおられ、顔見知りの職員や入居者が見舞う事で、退院への意欲をもってもらえる様にしている。

項目番号	項目		印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	現在、対象者がいない為行っておらず。		方針についての話し合いは行っている。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らすために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	現在、対象者がいない為行っておらず。		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	転居先へ介護情報の文書化を渡し、生活状況の説明もを行い十分な理解を得られるようにしている。		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	言葉掛けや対応には注意をはらい、誤った発言・行動があった時には、職員同士でも注意し合えるように努めている。		尊厳を守る言葉掛けに特に注意していきたい。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	問いかかけの仕方を解りやすいものとし、本人の希望を訊けるように取り組んでいる。食事・外出・入浴など決めてもらっている。		自ら決める事の出来るような解りやすい問いかかけ方を探って行きたい。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	ホーム内では個人のペースで過ごされている他、その時々に応じた外出や買い物へ出かけている。		自由に過ごすという事がほったらかしにならないように注意していきたい。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	希望者は市内の美容院に出向き行っているが、以外は訪問理容をホーム内で利用している。		訪問理容だが利用者本人のなじみとなっているため今後も利用していきたい。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	買い物や調理の手伝いを一緒にに行い、食事への楽しみをもってもらえるようにしている。		誰しもうれしみな一時なので満足できる献立を一緒に考えたい。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	菓子好きの方には日常的に楽しめるように個人で管理し楽しんでいる。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排尿時間の間隔を記録、把握し、さりげなく声掛け誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ある程度の時間帯は決まっているが、その中でも個人で希望した順番やタイミングで入浴している。		入浴を楽しんでもらえるようにゆったりと時間をとりたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自らの意思で自室で休息されている。夜間の入床時間も自ら決めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の中での役割が出来ており、楽しみ・気晴らしは個人の希望時に支援している。		個人の希望時の楽しみは増やしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持・管理されている方も有り、欲しいものがある場合もそこより、出しておられるときもある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人の希望により散歩や外の空気を吸いなどに、日常的に出掛けている。		同じ入居者に偏らない様にしたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の体調不良や職員不足などが重なり計画は出来ても実施できておらず。		日々の会話より言ってみたい場所を探り計画、実施させたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は自室で子機にて行ったり、ホーム内玄関の公衆電話を使用している。		希望者には暑中見舞いや年賀状を出せるように支援したい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には本人とゆっくり過ごせるように飲み物を出し気を配っている。		玄関を常に開放しており、出入りしやすい様にしている。訪問者の帰り際には「また来てください」と必ず声を掛けている。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設けてある。		活動実態が把握できず、定期的に話し合いができると良い。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵は付いていない。玄関の鍵も日中は施錠していない。		裏口の鍵も施錠せずに開放できると良い。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員同士で声を掛け合い、把握に努めている。夜間は三時間ごとの巡視を行っている。		プライバシーに配慮しながら、さりげなく安全に配慮したい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物は決められた場所へと片付けを行い、必要時には、職員見守りの元、使用している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防止策を職員で話し合い、一人ひとりに活かしている。必ず、万が一、という考えを持ち行動している。		一人ひとり状態が変わる為、その都度対応していきたい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルはあるが、全ての職員が訓練を行えてはいない。		全職員がマニュアルに沿った対応が出来るようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、消防署と避難訓練を行い、後、反省会も行っている。		全職員が訓練に参加し、防災意識を高めたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化があった場合には、速やかに家族へ報告を行い、リスクについても説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い変化、発見に努めている。月一回は体重測定も行っている。		緊急性の有無の判断が全職員が出来る様にしていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院後に通院簿、カルテに記載することは勿論の事、薬の変更、用法、用量については、申し送りを行っている。		薬の重要性についての意識を持っていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為に朝食時、ヤクルト、バナナなど提供している。他にも、主食を軟飯にしている。水分補給も定期的に促し行っている。		体を動かす事により便秘解消につなげていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	以前からの習慣で朝、昼に行かない方もいる為、無理強いはしていないが、声掛けの仕方を変えてみるなどして、支援している。		うがい薬を使用し口臭予防をしている方もいる。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々のチェック表があり、食事がわかるようにしている。		栄養バランスは大まかにしか考えておらず、偏りの無い食事に注意している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル化はされているが、全職員が把握できているかは、確認されていない。		全職員がマニュアルを理解し予防、対応に努めたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒は定期的に行っている。食材は必ず、消費期限を確かめ購入し使いきっている。		食器棚、冷蔵庫内など定期的に掃除していきたい。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設玄関には木製の表札を掛け、植物や花を置き親しみやすく、している。ホーム内玄関は開放されており、出入りしやすくなっている。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと台所がつながっている為、食事準備の様子がみえるようになっている。		季節感のある飾りを取り入れたい。
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓の近くにソファや椅子を置き日向ぼっこや入居者同士で顔を突き合わせ、話しをしている。		リビングは広いワンフロアな為、独りになれる場所はない。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真を飾ったり、自宅で使っていた物をそのまま持ってきてもらったりと、工夫している。		一人ひとりの落ち着ける場所として生活感のある場所にしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の了解後、窓を開け外の匂いや風を感じている。		各自室の窓もこまめに開け空気の入替えを行っている。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっている。各所に手すりが設置してある。		自室に手すりがなく不安な時がある。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室やトイレなど解らない方にはドアに名前や目印になるものを付けてある。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏口より畑を眺めたり、花を育てたりしている。		畑へ出て作業する事はできておらず。
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームおあしす(2Fユニットそよかぜ)

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ユニット玄関に理念を文章化し掲示している。		共通の理解をし、さらに浸透するようにしっかりと職員間で話し合いをする。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現場職員が理念を意識して取り組めているかは定かではないが、結果としてそれに基づいた取り組みになるような状況が、日常的に行われている。		理念を念頭において、現場スタッフがよりそれに基づいた関わりをしていけるように理念の理解を浸透させたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	季刊の広報紙の配布により理念への理解を求めているが、職員不足等で委員会活動がままならず、四季ごとのきっちりとした発行ができていないので改善したい。		人員体制が落ち着き次第、四季ごとに出せるよう委員会活動を行う。
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出時には挨拶、会話をしなすは顔を覚えてもらえるようにする。		親交を深め、気軽に利用者に会いに来てもらえるよう努力していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	踊りのボランティアを招いたり、図書館の催し物を見に行ったりすることはあるが、近隣地区行事への参加はあまり出ていない。		地区の保育園へ訪問することがあり、その運動会などに今後参加していく予定をしている。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区の奉仕作業には代表者、施設長がすすんで参加し高齢化のすすむ同地区に協力している。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を客観的な点検の機会として、理念の共有や地域との交流などで少しずつ改善が図られている。		評価内容から改善までが、どうしても運営者や管理者だけが理解して取り組んでしまう為、今後は全職員でそれを行っていきたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では書面で報告をしているが、それについての話し合いは事業所からの簡単な口頭説明のみになっている。		外部からの委員が市職員、民生委員、利用者家族代表の参加があるが、更に幅広い方々の参加を働きかけ、より多くの地域住民への理解や意見、要望などを得ていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者(1名のみ)が市役所で行われる地域会議に出席しているが、その他は必要に応じて相談・助言を窓口で受けるくらいとなっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持たず、制度への理解とまでは至っていない。		勉強会、講習会の実施が望まれる。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	話し合いにより虐待防止に努め、共通の理解としている。		
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な説明を行い、理解や納得を図っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会は設けていないが、意見を気軽に言ってもらえる関係作りに努め、その都度反映させている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りにより、写真入りで暮らしぶりや状況報告を行っている。合わせて金銭管理の報告を同封している。職員の異動については施設長が随時書面にて報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声を掛け訊くようにしている。その内容についてはすぐに反映させることが出来ている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議の場で機会を設けて反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度必要に応じて、勤務変更などの調整をし十分な対応に努めている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の頻度は退職などの致し方ない経緯もあるが、昨年度よりも多くなってきている。現場の職員と運営者は対照的な考えを示しており、運営者はどこの部署でも動められるように定期的な異動を正社員には求めている。		運営者と管理者が、入居者にとってなじみの職員がどれだけ大切なのかを話し合っていくたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実習普及センターの研修に勤務時間内でいけるようにしている。		救急講習会の受講を年に数回行いたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相談し協力的な意見はもらっているが、職員不足により訪問や勉強会を計画する余裕がない。		それらに取り組めるような体制になれば是非実行していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間をしっかりと気分転換を図っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員それぞれの長所が、具体的にどのように良い影響を与えているかなどをさりげなく説明している。勤務が通常考えて過酷であったりするときは前もって声を掛け、終了後ねぎらうようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	訪問調査をし、利用までに本人の意見や情報を集めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	訪問調査やその都度話し合いの場を持ち信頼関係を築いている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査票を作成し入居判定会議をし、他のサービス利用も考慮した上で対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学を家族とともに行うことを奨めている。		実現してはいるが、入居お試し期間のようなことが出来れば入居するお年寄りにとってはいいのではないかなと思っている。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理を教えてもらったり、時には職員が悩み事など相談する場面もある。		もっと過去の生活歴から、本人の得意な技術などが生活で活かされるようにしたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に協力してほしいことなどがある場合、面会時に話をし協力してもらうようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	大体の関係は理解しているが、深く立ち入ったところまでは聴くようなことはできていない。		入居者が家族に対しての不満等を言った場合、家族が傷つかないように伝えていけるようにしたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会を積極的に受け入れたり、なじみの床屋などには送迎したり訪問してもらったりしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクレーションから生活上の洗濯物たたみや茶碗拭きなど、一緒に出来ることは極力共同で行うようにしている。		無理強いになり入居者の重荷にならないように注意を払っていききたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去先への訪問をしてもいいか、退去時に家族に許可を得て関係を断ち切らないようにしている。しかし、実際に退去後の付き合いが継続的には行えていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を明確に言語化できる場合は随時訊くようにし、出来ない場合は過去の生活歴や、家族の意見、本人の表情などから本人にとって良いように検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に家族に聞き記録に残している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は本人の生活リズムや心身状態を把握して介護するようにしている。しかし、有する力の活用については、できることまで職員が手を出してしまうことが良くある。		入居者が何が出来て何が出来ないのかを把握し、できる事はしてもらえようようにすることを徹底していききたい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それに努めようとはしているが、特に家族の意見については十分に訊けていない。		家族に介護計画の重要性を理解してもらう為に、まずは計画を実践したことによる成果を明確に伝えていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行い、変化が生じた場合も話し合いをもって計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に経過記録をとり、介護計画に関するものについては青で囲っている。しかし、青で囲うべきものが成されていない時もある。		今一度、介護計画に関する記録の方法の徹底をしていきたい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能型居宅介護や介護つきマンションなどの、法人内の他事業所を視野に入れて支援している。居宅事業所の助言を得ることは日常的にある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	踊りのボランティアを招いたり、子供好きな入居者が保育園に訪問したり、同地区の小学生の訪問交流がある。		より多くの機関と交流を持っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域リハビリを活用し、年1回理学療法士に訪問指導してもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、地域包括支援センターとは、運営推進会議で状況報告する程度となっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医を主治医にすると、月1回の往診が受けられるということは説明するが本人・家族の意向に従っている。総合的な診療が必要な場合は、総合病院のほうが良いということを進言している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に理解のある精神科医に診察時などに普段疑問に思っていることなど相談できている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホーム看護師として配置されており、随時相談、助言ができています。地域の看護師とは受診時や入院時くらいしかそういった機会は持っていない。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は面会時などに情報交換をするようにしている。そうした場合に備えての連携は得にされていない。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約書に添付されている対応マニュアルをもとに、本人や家族、担当医、看護師と話し合い、方針を決定し共有している。今現在取り組んでいる。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>方針により対応の統一を図り支援するが、複数の入居者が重度化したときにどこまで対応できるかが課題となっている。</p>		<p>対応に対して混乱のないように事前に検討しておきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>転居先に介護情報として文書を渡すようにしている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>訪室時のノックや居室にはいらせていただく時の本人への声掛け、広報紙などに写真を載せる時の本人や家族への了承を得ている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>筆談をつかったり、選択性のあるものは実際にそれを見せて決定権を行使してもらっている。しかし、特に介護の内容についてはどうしても職員本位になりがちである。</p>		<p>結果としてほぼ入居者の為になると思われることでも、本人に選択権と決定権があることを念頭におき、もっと本人と会話を持って何事も決めていく気持ちを職員は持っていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切には考えているが、無意識のうちに職員の都合になっていることが多い。</p>		<p>管理者はユニット内の決まりごとなどが、入居者の生活に支障を及ぼすような職員本位のものでないか配慮していきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の望むようにしている。店に行くこともあればホームに出張してもらうこともある。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事づくりを一緒にしたり、下膳時も各自で行うようにしてもらっている。献立も好みを反映させてはいるが、一緒に考えるような形では今は行われていない。</p>		<p>献立づくりに参加できる入居者には参加してもらえようになりたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物やおやつなどは買い物時などに好きなものを買ってもらったり、買物代行をして楽しめるように支援している。酒やたばこも容認し楽しんでもらっている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時のトイレ誘導をしたり、夜間のみオムツをしたりして安易にオムツの使用を始めたりしないようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームで決まっている20:00までの範囲内なら希望に応じて入浴してもらっている。午前中に入ることもあれば夕食後に入ることもある。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度の昼寝は本人の意思に任せ、夜間不眠で辛そうにしているときなどは休息を勧めている。夜間の不眠時や昼寝をする場所も和室だったりソファだったり希望にあわせている。和室で夜勤者と床を並べることもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調査票や日常での会話、家族に聞いたり情報を収集し、ホーム内でもしてもらえるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所司を希望する場合はしてもらい、希望がない場合はスタッフルームの金庫に預かるが、買物に行くときなどはいつでも使えるようにしている。		レジでの支払い時に能力のある人は本人にしてもらえるようにする。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望がある場合は応じるようにしている。また、外出時には他の入居者の希望も聞き、なるべく外出できるように促している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日帰り旅行をしていたが、身体機能の低下や本人の拒否がありできてない現状である。		機会を見て計画をよく練り支援したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらっている。0番を最初に押さないとかからないため、職員がダイヤルを手伝っている。手紙についても希望時は代筆したり、必要物品を一緒に買いに行ったりして応じている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、本人、家族の希望により落ち着ける場所にて過ごしてもらっている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしてはいけないことは知っているが、細かい内容や言葉による拘束についての認識はできていない時がある。		身体拘束のないよう理解をし、浸透させていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の希望や身体の危険が予測される場合以外は掛けないようにしている。その場合は必ず本人と家族の理解を得るようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在をさりげなく把握し、監視されているような気持ちを与えないように気をつけて安全に配慮している。しかし、時々所在の把握を意識するあまり、過度の行先の確認をしたりしてしまっている。		すぐに「どこ行くの？」などと声掛けすることが時々見られるので、ゆっくり動向を見守るように対応の統一を徹底する。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に排除するのではなく、生活の質を落とさないように、工夫して個々に対する対策を残すようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災については年1回の総合訓練で消防署の指示助言を得ている。転倒しやすい入居者には見守りを必ずし、薬については個別に一日分を朝・昼・夕と袋わけしている。ただし、リスクマネジメントについては研修などにも行けておらず全職員が学習不足である。		管理者はリスクマネジメントについての学習を、研修なども利用して今後全職員に啓発していきたい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルにはあるが、それに要する技術や訓練は定期的に行っていない。		消防署の協力を得て、定期的な訓練をホームまたは消防署などで行っていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については訓練を行えているが、地震や水害については訓練すら行っていない。地域の協力を得られるような働きかけもできていない。		地震・水害についての訓練も行っていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	話し合うことが出来ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り用紙に記載し、全職員が認識できるようにしている。しかし、その内容をきちんと出勤時に見ているかどうかを、管理者が職員に確認することが日常的に出来ていない。		管理者は、情報の共有に努めていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と一緒に添付してある薬情報により理解しているが、管理者が職員全員に把握しているかあらためて確認はしていない。		薬の情報について理解しているか管理者が確認する。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動については理解し取り組んでいる。食事については食物繊維の十分な摂取をと配慮している。		食事の工夫については栄養士への相談により、いっそうの改善に努めていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後はしてもらっている。しかし、朝や特に昼は、過去の生活で習慣のない入居者が多く、促しはするが無理にはしてもらっていない。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のチェック表につけ、支障のない限り量も本人の希望に応じている。水分量については必要に応じてチェックしている。		栄養士が法人内に勤務している為、栄養バランスについて助言など連携を深めていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成してある。しかし、管理者はそれを職員がどれだけ把握しているかを、あらためて確認することは出来ていない。		全職員に感染予防への理解の徹底に努めていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	長利前には、職員はもちろんのこと、手伝ってもらう入居者もしっかりと手洗いをし、賞味期限にも気を配っている。調理用具の消毒は定期的に行っていない。		調理用具も定期的に消毒していきたい。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を置いて明るい雰囲気を出している。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に花や創作物を展示している。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際の明るい場所にソファを設置したり、テレビや掘りごたつのある和室があるなどつるぎる場所の提供を行っている。		状況に応じて、その都度、机やソファなどの配置を変え居場所作りを行っていく。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた思い入れのある物品やタンス、仏壇などを持ち込んで使ってもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開け換気し、冷房・ドライ・暖房を必要に応じて使い温度調整をしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりを追加したりと工夫している。物品庫の扉に手すりが付いていて危険が予測されたため、簡単な鍵をつけている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレに目印をつけたり、湯冷まし要のきゅうすにも、それとわかるように目印をつけている。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	希望により洗濯物が干しやすいように物品購入の支援などを行っている。エレベーター内には入居者の活動写真が貼ってあり、1Fの玄関には花が植えてある。しかし、裏の畑が雑草が多くなりがちで思うように作物や花が育っていない。		入居者と一緒に畑で花や作物を育てていきたい。
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)